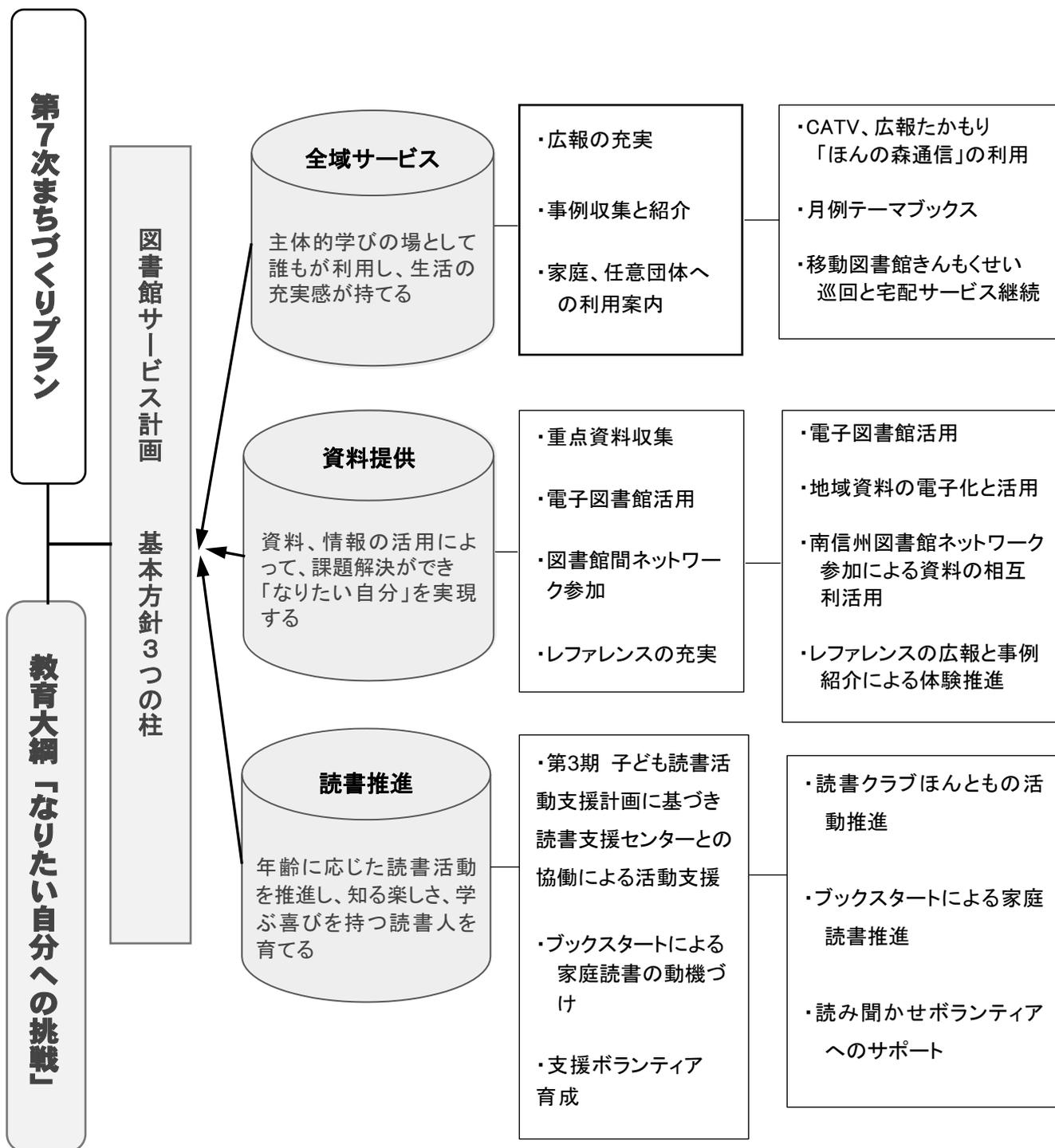


高森町立図書館サービス計画

高森町立図書館サービス計画概要図



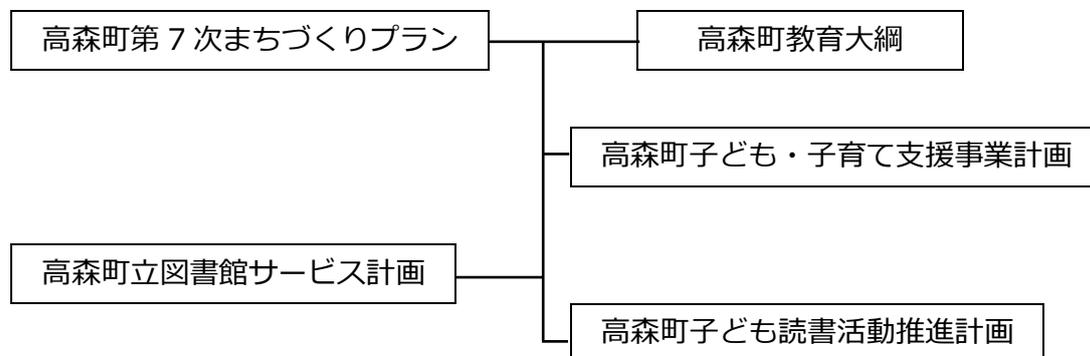
第1章 計画策定に向けて

1、計画策定の目的

図書、記録その他必要な資料を収集、整理及び保存し、広く町民の利用に供するとともに、その教養・研究及びレクリエーション等に資するため設置された図書館が、より効果的に利用され、地域生活に役立つ生涯学習施設として機能するよう、サービス計画を策定して取り組む。高森町の「第7次振興総合計画（まちづくりプラン）」および「高森町教育大綱」との整合性の上に、子ども読書支援センターの進める図書館間の連携による学校図書館機能の充実を含めて体系的な計画と実施を進める。

2、計画の位置づけと実施期間

この計画は「図書館法」「図書館の設置及び望ましい基準」に基づき、「高森町第7次振興総合計画（まちづくりプラン）」、また「教育大綱」「子ども子育て支援事業計画」等の教育ビジョンを受けて、「子ども読書活動推進計画」などの関連諸計画との整合性と、社会および図書館界の動向をふまえて作成し、2023年より概ね5年間を目途に図書館サービスの向上に取り組むものである。変動の激しい時代であり、必要ある場合は期間にかかわらず修正する。



3、高森町立図書館の現状と課題

高森町では1985年に中央公民館に併設して町立図書館が開館し、37年が経過する。高度情報化によって利用ニーズが変化する中で、誰もが気軽に利用でき、資料の活用によって自己実現を支援する生涯学習施設を目指してきた。全域サービスを目指して町内を巡回する移動図書館の運行も継続され、図書館を利用しにくい方々に対して利用の機会を生み出してきた。

移動図書館運行継続について、2020年の図書館協議会への諮問では、現車体の老朽化も心配されるが、今後、交通弱者の増加をはじめ、来館の困難な方々に対してのサービスの拡大が期待

され、縮小しても継続を望みたいと答申がされた。

家庭への読書支援として 2002 年より開始したブックスタート事業は、保健師や保育園、学校との連携で乳幼児、就園児、小学生と対象者へ本を贈ることにより、家庭での読み聞かせと図書館利用のきっかけづくりとして事業が継続されている。

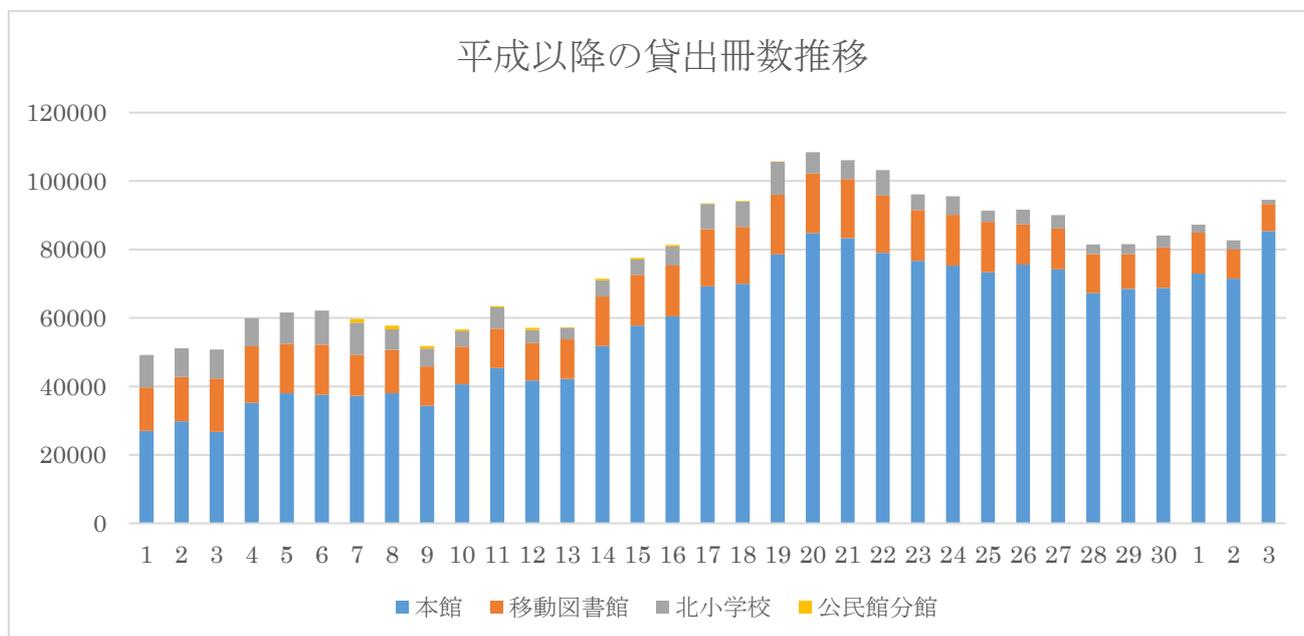
2011 年の定住自立圏構想での南信州広域ネットワークの実現によって、蔵書のデータベースを 100 万冊以上に拡大し、参加自治体との協働によって、自治体を越えた蔵書と図書館の活用によって、読書推進などサービスの向上を目指すことができた。

2020 年にはヤングアダルト世代の利用拡大と、GIGA スクール構想での活用を目指したコンテンツ選択で「高森ほんとも Web-library」の電子図書館を開始し、オリジナルコンテンツの作成もすすみ、2023 年以降は県協働電子図書館「デジとしよ信州」に引き継がれる予定である。コロナ禍で図書館が仮に休館しても家庭での読書を保障するサービスとして期待される。

町内の子どもの読書活動活性化に対して、総合的に計画と働きかけを行うために設置された子ども読書支援センターは、関係部署の協働によって高森町民のための読書推進の要となっていくことが期待されている。

(参考：近年の貸出冊数の推移)

年号	平成															令和		
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3
本館	60465	69277	70017	78539	84790	83316	79007	76762	75299	73392	75599	74237	67258	68513	68795	72984	71517	86542
BM	14863	16670	16570	17458	17455	17262	16734	14758	14886	14691	11784	11890	11403	10186	11884	11977	8495	6745
北小	5550	7335	7395	9662	6189	5511	7433	4643	5383	3317	4226	3958	2785	2886	3387	2286	2711	1189
分館	493	182	187	66	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	81371	93464	94169	105725	108434	106089	103174	96163	95568	91400	91609	90085	81446	81585	84066	87247	82723	94476



第2章 サービス計画の基本理念と方針

1、高森町立図書館のサービスの基本理念

高森町では情報による地域課題解決と生涯学習の拠点としての役割をはたすよう、次の項目をサービスの基本とします。

- ・誰もが気軽に利用できる親しみある場となる環境づくり
- ・読書や学び、生活の知恵と情報を主体的に得て生涯学び続ける体制づくり
- ・「なりたい自分」になるための自主学習の場として、人や施設が連携して力を育む場となる

2、基本方針

公共図書館としての役割から次の3つについて重点的に取り組む。

1□全域サービス

町内全域で誰もが図書館を利用しやすい環境づくりを行う。

図書館の広報や移動図書館の活用によって利用者を増やし、図書館をより身近な情報拠点として活用していただけるよう取り組む。

2□資料の提供

町民の生活や仕事の課題解決に図書館の情報を活かせるよう、資料の収集をもとにレファレンス・調査相談に対応する。また町民の課題解決体験が増加するような広報を行う。

3□年齢に対応した読書活動の推進

子ども読書支援センターとの連携により、乳幼児から児童期、青少年期の体系的な読書支援に取り組み、自己実現のために「なりたい自分」を見つけ、「なりたい自分になるために」挑戦する未来の読書人を育む。

第3章 サービス計画内容

1、取り組み内容

1□全域サービス

町内全域で誰もが図書館を利用しやすい環境づくりを目指す。

図書館の PR や移動図書館の活用によって利用者を増やし、図書館をより身近な町の施設として活用していただけるよう取り組む。

アクションプラン	内容
広報による利用者増	<ul style="list-style-type: none">・広報誌、ホームページなどの媒体を活用して図書館がより身近なものとなるよう情報発信を行う。・活用の体験談など参考にできる事例を集めて広報する。・任意のグループの集まりなどに出向いて利用方法を紹介するなど、図書館への関心を高めるよう働きかける。
移動図書館の巡回見直し及び宅配の充実	<ul style="list-style-type: none">・移動図書館の巡回を見直し、より効果的に利用が進むよう配慮する。・現在の移動図書館は 2000 年に導入されたもので、運行距離は 5 万 6 千キロ余りだが、車体の老朽化が心配される。保育園や地域の高齢者の方々には継続の希望も聞かれることから、継続であれば小規模化などの検討を始める必要がある。・宅配への移行など来館しにくい方々の利用を促進していく。
来館しにくい人たちへの対応	<ul style="list-style-type: none">・高齢者、障がいのある方への宅配や福祉施設への団体貸出を充実させる。・電子図書館の PR と活用を進める。

2口資料の提供

町民の生活や仕事の課題解決に図書館の情報を活かせるよう、資料の収集やレファレンス・調査相談に対応する。また図書館利用によって町民の課題解決体験が増加するようなPRを行う。

アクションプラン	内容
資料収集	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集方針に基づき、資料の充実努める。 ・利用状況、リクエスト、地域特性、社会の動向を把握した資料の収集を行う。 ・課題解決の具体的支援として健康情報、ビジネス情報、行政情報の3項目について特に収集対象とする。
資料整理と保存	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料を中心に必要なものは長期保存してコレクションを構築していく。 ・町内資料の収集保存を漏れのないように行う。 ・郷土資料のデジタル化と公開を進める。 ・当館除籍基準に基づいて除籍をすすめ、ゆとりある配架にとめる。
資料提供・情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を充実して活用をはかる。 ・関心をひく棚づくりや特集コーナーづくり、読書案内を続ける。 ・蔵書に町民の意見を反映させるよう、リクエストや予約を受け付ける。 ・図書館の相互貸借や複写サービス、著作権の周知を行う。 ・館内サインの見直しや棚の配置、見やすい配架を心がける。WebOPAC(オンライン蔵書検索)や、館内 OPAC(利用者開放端末)からの検索後、棚の前にたどり着きやすいように配架図を見直し、わかりやすいものにする。
南信州図書館ネットワークへの参加	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館管理システム更新や運用事務を支障なく行い、図書館サービスの質を一定化するよう、参加自治体によるネットワーク会議に参加する。 ・南信州図書館ネットワーク参加館とともに各館の分担収集や保存なども検討していく。

<p>課題解決支援と情報提供 レファレンスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の発見ができるよう、情報発信を充実させる。 ・地域の団体や機関に利用の機会をつくり、利活用の紹介を行う。 ・農業や時事情報の商用データベースの利用と活用をすすめる。 ・町が行う企画に関連した資料リストをできる限り提供していく。 ・各種問い合わせや相談、調査研究への資料提供を迅速に行う。
<p>職員研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料提供、レファレンスほか職員の研修を深め、町民の皆さんからの多様なニーズに対応できるようつとめる。 ・司書連絡会ほかの関連した機会に、次代を担う子どもを育む読書について働きかけを研修し共有する。

3□年齢に対応した読書活動の推進

子ども読書支援センターとの協働により、乳幼児から児童期、青少年期の体系的な読書支援に取り組み、次世代支援で未来の読書人を育む。

青少年、成人に対しては主体的な学びの実現を支援する。

アクションプラン	内容
<p>乳幼児期の動機付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート（乳幼児、保育園年少児、小学1年生）の継続により、はじめて本と出会う子どもとその親に、読書と図書館利用のきっかけづくりを支援する。 また、対象となるリストを見直し、より身近なものから絵本の世界に触れられるよう配慮する。 ・読み聞かせ講座の実施により、親子で絵本やわらべうたを楽しむ機会を提供する。 ・子育て支援センター「あったかてらす」の利用親子に向けて読み聞かせを行い、親子読書と図書館利用の啓発の機会とする。

<p>児童・青少年期の読書推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週土曜日に行うお楽しみ会をボランティアグループと共同で継続し、図書館に通う習慣作りとする。 ・1年生への「サードブック」の実施を継続し、読み物への移行にスムーズに入れるよう支援する。 ・コミュニティスクールの読み聞かせのコーディネート役として関わり、ボランティアグループが研修をしながら学校の期待にそう活動が続くよう配慮する。 ・デジタル図書館「ほんとも Web-Library」への登録推進を行い、ICT教育の場での活用を促す。 ・町外へ通学する高校生を対象にデジタル書籍の活用をはかる。 ・電子図書館を英語学習の多読に役立てるよう案内する。
<p>成人の利用推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成人を迎える方々へのPRを成人式に行う。 ・主体的な学びの場として活用の案内を行う。 ・デジタル図書館「ほんとも Web-Library」への登録推進。 ・読書会、学習会、講演会など、テーマごとに人が集い、学び合う機会を提供する。
<p>高齢者の利用推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人生100年時代の先駆けとして、図書館利用の事例を集積し、発表していただく機会をつくる。 ・デジタル書籍や大活字本の活用により、生涯現役の意識を高められるよう働きかける。
<p>読書活動支援ボランティア育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせをはじめ、子ども読書活動の支援をするボランティアの育成と研修をサポートする。
<p>子ども読書支援センターとの協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書支援室との共同により体系的な子ども読書活動の支援を行う。 ・読書によって養われる力を高めるよう、情報の交換をしながら検証していく。 ・学校との連携による資料整備と提供、支援を行う。 ・子ども読書クラブ・ほんとも企画と実施により、最終的に自主学習の次世代のグループづくりを目指す。

2、アクションプラン別 成果の指標

	アクションプラン	指標	目標値	R3 年度
1	広報等による利用者増	広報回数	月 4 回	月 3 回
		登録者数	5,000	4,616
		来館者数	21,000	20,375
2	移動図書館の巡回見直し及び宅配の充実	宅配ポイント	継続	10 か所
3	来館しにくい人たちへの対応	福祉施設への巡回	継続	4 か所
4	資料収集	蔵書数(冊)	80,000	92,230
	リクエスト受付件数	予約件数	10,000	9,018
5	資料整理と保存	年間受入数	4,200	4,006
6	資料提供・情報提供の充実	レファレンス件数	100	56
		登録者当りの貸出件数	19	18
7	南信州図書館ネットワークへの参加	借用数	10,000	8,198
		貸出数	7,000	5,813
8	課題解決支援と情報提供	レファレンス件数	100	56
9	職員研修	研修回数	15	10
10	乳幼児期の動機付け	読み聞かせ会開催	30	24
11	児童	登録数	1,500	1,236
12	成人の利用		3,400	3,318
13	成人のうち 70 歳以上		660	590
14	学び集う機会	集会行事開催	4	2
15	デジタル書籍の活用	コンテンツ数	1,200	800
		登録数	1,000	370
		利用数	3,000	1,388
16	読書活動支援ボランティア育成	研修回数	年 15 回	年 12 回
17	子ども読書支援センターとの協同	行事開催回数	年 4 回	年 3 回
		研修会開催	年 6 回	年 4 回